

## 「5 月度研修会／先端研」報告

修習技術者支援実行委員会 委員補佐  
関 高行 修習技術者(環境部門)

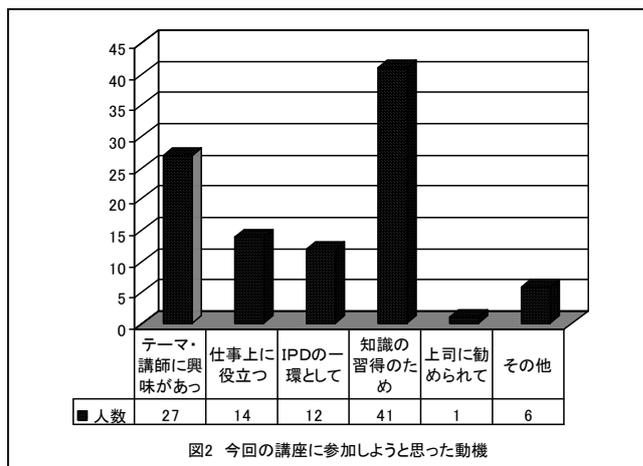
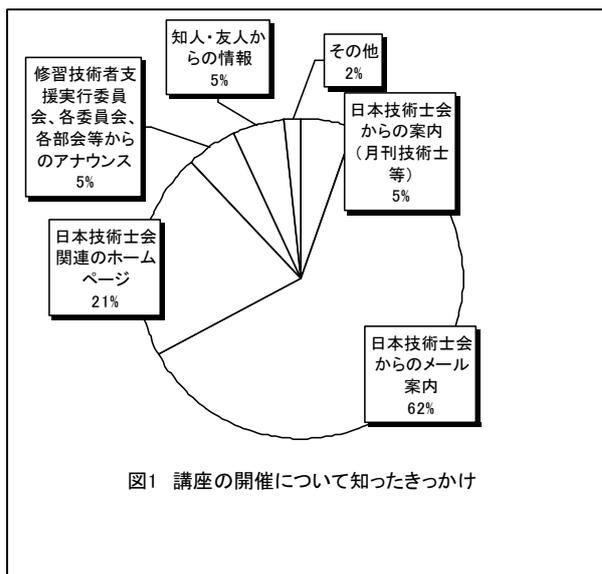
### 1. 研修会概要

日 時 平成 22 年 5 月 8 日 (土)  
13 : 00 ~ 20 : 00  
主 催 社団法人日本技術士会  
修習技術者支援実行委員会  
会 場 日本技術士会葺手第二ビル 5 階

### 2. 研修会の内容

開催説明・講師紹介 修習技術者支援実行委員会	13:00~13:10 永野 澄
講演① 「技術士に必要とされる問題解決能力」 情報工学・総合技術監理	13:10~14:00 奥田 孝之氏
講演② 「計画及び設計」 上下水道・衛生工学・建設・ 環境・農業・森林・水産・ 応用理学	14:00~14:50 井上祥一郎氏
休憩	14:50~15:00
講演③ 「問題発見・解決」 機械	15:10~16:00 大野 耕一氏
休憩	16:00~16:10
第 274 回先端複合技術研究会 司会	16:10~18:00 高橋 康朗
情報交流会	18:00~20:00

### 3. 研修会の参加者



今回の出席者は72名で、参加のきっかけは図-1、参加の動機は図-2にそれぞれ示すようなアンケート結果であった。

### 4. 研修会状況について

今回の研修会の課題は基本課題「業務遂行能力」～「計画および設計能力」、個別課題『問題発見・解決能力』である。

多様な観点から、『問題発見・解決能力』、「計画および設計能力」について説明した興味深い講演であった。

#### ◆ 講演①について

奥田氏の講演は、①問題とは何か、②問題解決の手法、③問題解決におけるリーダーシップを、中心とした講義であった。

「①問題とは何か」では、問題とは望ましい姿と現実とのギャップであることを説明された。

「②問題解決の方法論」では、問題の種類に応じて問題解決法を使い分けることが重要であることを説明された。



写真1：奥田氏の講演状況

「③問題解決におけるリーダーシップ」では、問題解決とリーダーシップが互いに必要であることを説明された。

問題とその発見・解決について考えるきっかけとなる大変有意義な講義であった。問題解決能力を研鑽し、技術者として日々の業務に望みたいと考える。

#### ◆ 講演②について

井上氏の講演は、①技術士になる前後で何が変わるか、②土壌浄化法、複合ラグーン法、小山・岸法、吸引・送気微生物発酵法の事例から、計画・設計について、③ケイ素、濁度に着目した流域環境修復技術を中心とする講義であった。特に、強調されていた事項は、「①技術士になる前後で何が変わるか」である。その概要は、技術士は技術士法に則り業務を行うことが、社会貢献にとって重要であるということである。

井上氏の所有 8 技術部門が一貫した思想に基づいていることに、深い感銘を受けた。技術とそれに携わる人々に対する興味深さ (interest) を知ることができて、とても幸福である。



写真 2：井上氏の講演状況

#### ◆ 講演③について

大野氏の講演は、①問題発見・解決能力の学び方②問題発見・開発能力と鑑定業務③修習技術者に対する期待を中心とする講義であった。

「①問題発見・解決能力の学び方」では、この能力は「教え・教えられる」ことができないものであると説明された。

「②問題発見・開発と鑑定業務」では、世間から技術者が信用されてない事例、総合人間力の必要性、鑑定業務の厳しさを説明された。

「③修習技術者に対する期待」では、自己研鑽の方法について説明された。

技術士になるために何をすべきか、技術士として生きるためには何をすべきか、について深く考えさせられた。今後の自己研鑽に対する覚悟の必要性を痛感した。



写真 4：大野氏の講演状況

### 5. 先端複合技術研究発表会

修習技術者の①相澤靖氏(電気電子)、②弥園浩典氏(電気電子)、③西尾敏和氏(建設)の 3 名の発表が行われ、積極的な質疑応答が行われた。

①相澤氏の発表は、蓄電池の交換時期を内部抵抗と端子電圧により推定する方法についてであった。

予防保全の有効性と、その検証の困難さについて知ることができた。

②御園氏の発表は、IP 電話網導入の計画・設計・施工についてであった。

通信技術における進歩の速さを、改めて認識させられた。自分と同じ現場技術者の日々の努力を垣間見ることによって、自己研鑽の意欲をかき立てられた。

③西尾氏の発表は、まちづくり(地域活性化)のためのワークショップに関する発表であった。

技術者がどのように社会貢献できるかを、知ることができた。

### 6. 情報交流会

情報交流会を、研修会終了後に会議室で行った。今回も多くの方の参加を得ておおいに賑わった。

以上